

加布里っ子だより

文責 校長 伊藤 由美子

かんがえる かしい子ども
ふれあい つながる子ども
りっぱに やりとげる子ども

◇6年生を送る会～ありがとう6年生～◇

今まで、加布里小のリーダーとして、下級生の面倒を見たり、それぞれの委員会で学校生活をよくするための活動をしたりしてくれた6年生。2月14日(金)の「6年生を送る会」では、そんな6年生に対して今までの思い出を振り返り、在校生から感謝の気持ちを伝えました。



【1年生】劇と歌
「くじらぐも」

入学当初から、6年生にはたくさんお世話になりました。一つ一つの言葉をはっきりと大きく言ったり、元気よく歌ったりすることで、感謝の気持ちをしっかりと伝えました。



【2年生】音読劇
「スイミー」

全員の台詞と動き、歌声で「スイミー」の場面を表現しました。クラゲやイセエビも登場しました。このお話で、「みんなで力を合わせることの大切さ」を伝えてくれました。



【3年生】音読劇
「モチモチの木」

3年生一人ひとりが、ステージでもフロアでもしっかりとお腹から声を出してセリフを言っていました。「人は、大切な人のためなら勇気を出すことができる」ということを教えてくれました。



【4年生】劇と歌
「ありがとうの気持ちを」

6年生が今まで下級生や学校のためにしてくれたことを劇にして振り返りました。最後の「6年生は、わたしたちのHEROです!」の言葉は、6年生も誇らしい気持ちになったことと思います。



【5年生】合奏と合唱
「青と夏」「心の中にきらめいて」

テンポが速く、軽快なリズムに合わせた難曲をリコーダーでみごとに演奏しました。また、合奏や呼びかけからは、「来年は、自分たちが最上級生になる」という思いが伝わってきました。



【6年生】合奏と合唱
「かけがえのないこと」

さすが、6年生。
息の合った合奏と、美しいハーモニーを聴かせてくれました。加布里小での、6年間の思い出を胸に中学校へ進学してください。

◇いつもおいしい給食、ありがとうございます!給食記念週間◇

1月末から、各学級で給食記念日についての学級指導を行いました。この授業は、給食記念週間を機会に、給食の歴史や仕組みを知り、給食と給食調理員さんをはじめ、給食に携わる人々に対する感謝の気持ちを育てることをねらいとしています。

子どもたち全員で学年ごとに、いつも安全でおいしい給食を作ってくださいる調理員さんや生産者の方にプレゼントや手紙を渡しました。1年生の分は給食室前に掲示してあります。

日本の学校給食は、明治22年に始まり、各地に広がっていききましたが、太平洋戦争の影響などによって中断されました。しかし、戦後の食糧難により児童の栄養状態が悪化したため、学校給食再開の声が高まり、昭和21年12月24日、東京の一部の学校で学校給食が再開されました。この日は冬休みになることがあるため、1ヶ月後の1月24日を「学校給食記念日」とし、1月24日から30日までを「全国学校給食週間」と定められています。



1年生から
調理員さんへのプレゼント

1月20日の
給食の献立



【生産者の方と一緒に給食を食べました】

◇「やったあ。雪だ!」◇



2月の4日(火)~7日(金)は、この冬1番の寒気が流れ込み、5日(水)は、運動場にもうっすらと雪が積もりました。

雪を見つけた子どもたちは、中休みのチャイムが鳴るやいなや運動場に飛び出てきて、走り回ったり、小さな雪玉を作って雪合戦をしたりして遊んでいました。やっぱり、子どもたちは、元気です!